

## 第三回大学技術職員組織研究会(米子会議) 報告書

1. 開催日時： 令和元年9月27日金曜日 13:00～17:05
2. 開催場所： 鳥取大学 米子キャンパス(総合教育棟 2F 323 講義室)  
〒683-8503 鳥取県米子市西町 86
3. 主催： 鳥取大学技術部  
共催： 大学連携研究設備ネットワーク
4. 参加人数： 43名
5. 内容：

今回の本研究会では、「技術職員の評価について」と「機器共用について」を2つのメインテーマとして、人事評価制度、キャリアパス、人材育成、機器共用の推進、大学連携研究設備ネットワークと「有志の会」について、別紙プログラムにより議論を進めた。

評価制度においては、360度評価など多種の評価システムの紹介により、大学技術職員の実状に即した評価システム構築の必要性が求められた。職員のモチベーションにのみ評価を使用している大学や働き方改革にも繋がるテレワークの導入などの意見も出た。技術職員には明確なキャリアパスも人材育成の仕組みも確立されていない。評価制度とキャリアパスと人材育成は、表裏一体として考えるべきであり、一例としてNIMSでの職の名称付与の紹介や広域での大学間の人事交流制度の確立が提案された。処遇改善への意見は多く、専門員や専門職員の人数割合に大学間差が大きいこと、選考採用者への前職の職務経験などが考慮されないとのことなどから新たな技術者を評価できる職を作ってはどうかとの意見が出された。

機器の共用では、各大学の機器の老朽化や、人員不足、年齢構成の偏り、外部利用の推進などの問題を抱えている現況や今後さらに共用化が必須になることの報告があった。技術の向上のために、設備ネットワークを活用して、情報収集や外で見聞を広げるだけでなく、研修を技術職員が自ら企画・提案し、具現化して欲しいとの意見があった。

東工大の江端氏から、文科省の資料にワードとして「技術職員」が載ったという報告があり、これまで見えていなかった技術職員の「見える化」に努力すべき時であり、各種研究会などでの議論は今後集約化を検討する必要があるという議論がなされた。また、技術職員の組織化・処遇改善には一刻も早く、全国技術長会議や理事クラスの部長会議などの開催を実現して欲しいとの意見も出された。

有志の会は発展的に解消し、今後は本研究会を議論の場とすることが確認された。なお、有志の会での情報共有やアンケート調査については本研究会のメーリングリストにより引き継ぎ、NICAや文科省等への情報提供も行っていく。

### <次回開催について>

テーマ： 採用について(一般採用と選考採用の違い、採用募集を出しても受験者がいないなど)

開催校： 琉球大学 (担当:屋比久 技術長)

時期： 琉球大学が決定



第三回大学技術職員組織研究会（米子会議）プログラム

令和元年9月27日（金曜日）

13:00-13:05 開会のあいさつ（鳥取大 技術部長・河田）

進行：鳥取大・三谷

13:05-13:25 「技術組織の評価について」（名工大・玉岡）

13:25-13:40 「全学組織化による教育研究の強化・推進」（熊本大・上村、須恵）

13:40-13:55 「岩手大学技術系職員の評価について」（岩手大学・中條、星）

13:55-14:10 「ナノテクノロジープラットフォームの機能付与の取り組みと現状」（NIMS・井上）

14:10-14:25 「鳥取大学からの提案」（鳥取大・甲斐）

14:25-15:00 <ディスカッション> 「技術職員の評価とキャリアパス」

15:00-15:15 休憩

進行：鳥取大・丹松

15:15-15:25 「大学連携研究設備ネットワーク事業について」（分子研・大原）

15:25-15:40 「九州工業大学の機器共用について」（九工大・井本）

15:40-15:50 「大学連携研究設備ネットワークと有志の会について」（名工大・玉岡）

15:50-16:00 「事前アンケート報告」（分子研・大原）

16:00-16:20 「研究基盤研究会（仮称）へのご招待」（東工大 教授・江端）

16:20-16:50 <ディスカッション> 「大学連携研究設備ネットワーク有志の会との連携を考える」

16:50-17:00 その他報告など

17:00-17:05 閉会のあいさつ（大学技術組織研究会顧問・勇木）

17:10- 施設見学会（進行が遅れた場合は中止）